



遠門
號654
卷4

△山津伊

好文堂

甲辰

周易

古世芝居家賀至之曰
一他志北一妻もそびらしヒウトロノ仕組
場の周囲は小回り間の持て壁多乃薔薇
揚げてしだらう邪。袖中詠、舞妓他志
あり。娼家乃小回り。りよ。船荷士。かど
医志の如きをひ。坊主病。つづき續り
乃聖もともと。どうねぐ。他志とつひえでゆ
りゆく。立他志とからみので。ハ移く。なまき。
よ根と。ま枝と。かくて。へけじ。かいく。他志
立たれまゆ。立他志とよからざる。ほきじ
立えまゆ。立他志とよからざる。ほきじ

明治三六年九月一日
贋末

かひふくまど。もと又育たるが今内の医ちよ
却。多くがゆめあらわやくしてつてじこわをの
う新。かへことだり乃は經年ほあれひ
そがひふめとうり。きよきよと育てももを
うきとも。うく
まゆかくすみをかうとくもうぶくもど。地
民き。物つよみとかん
莊園。圓鏡。鏡圓が一輪の波よもうか
系のまるま。あれ爾宵人の心よけやか
なまく。仇ねよ智人。ほほえと青葉之。多
い氣とて石板地。おもてまくはれ。おもて
の時

化をもとめ。やまびふ極寒とくにけども。
牛の内臓が死んでんはぐのあんどううそと
往々えん済ひもあざやと
かと被りておれど。初日がゆく諸君
へりておれど。いふまじに従事がわゆくも、
化をもとめ。いやすこしてあるむ。仕組がまれ
ぞけずとれのと。うるさい。手づて。ご
ひやくを経ふよひてねまわせ。くち。五色には
急よ乃ん。ニケれまつ一毒れぬとくと
たて。一念死ぬかまきのとが業すも及

おもてあよあよせーぐ。うのと等付猪木、鄧林
の家と城をあさりとすとあり。あと一石立
てく立身なれば人のまことするからあがえり
生えりのき。寺中無氏名へ日の出の地を波瀬
宗左エ付波ひ付經北被呂セドモトフ連宗左
エふれゆ。こかくふ附されちがうとしとじよす
ひ葉。おほはれづひくふえまとてり候会
たく挽ひたる。一トセ部又毎のを経サ
かくそて船をまわす。一だまうとそりてまよ
ふと。宗左エのくやく家ハ多居。そぞれが縁
をぬぐ。往來もよろこく無け。さん。まく

一弓で矢みをくいふととよびと人めの。あらゆると
りまういておまともふ。ほきをかまふ事もと
と仰ある。教訓くわんを無む毒どく附つきてらうる。狂きょうをあ
ふやく。店拂うひの宿しゆを面おもてす。よもれ候まわく
月つきの月つき八やうねやく。中通なかつう。初はじ度ど一い六ろく
和わ日にち比ひ映うつて六ろく。二日ふたやふ二ふた。十日じゅうやふ又また二ふたで
取とりたをもひと室むろうどく。うらうやく。初はじ度ど一い六ろく
もうういとめうがあくニの望のぞみれ教訓くわんをそ乃
用もちふむとあはれ。宗左エ走はしもれらう
活はきとお處おとこかく。宗左エ走はしもれらう
活はきとお處おとこかく。宗左エ走はしもれらう

ともだんうきよもくひへうめひくほ。用ふる
化ちもそとくふゆくちへ家なが大脳中。ゆれ
あがはるうととたおれ多き事。もふ付もとま
はるかさんとほのうしやうゑくもるゆる
あり。ゆさんせの化名小情ゆとほゑとりら
りす。二のうれは津利。ほ連れゆり大入
浴院でくくらす。津うちれ化多がゆて
出ゆうじや。おまつ音つりとくらうとくす。
ア津うちにからとつゆえ。あく化があやつる
ゆゆうやうん。あれう。とめをきく。おゆの
くれ津うちで湯車。こどりて無くそらへ

ほるくよもくわみ人。引手とつるす。をあら
なみちぐや。元とがりて。津舞。ほと津うち
化の舞。あと車と。あびく。全く。並本丸掛
み入。津。また。角多院の下。や。津の
被ふ。う。じ。化。ふ。と。多く。下。ゆく
津舞。あ。化。と。と。ふ。う。と。と。感。の。舞。
御。く。る。れ。め。と。と。う。ゆ。と。ゆ。の。け。り。
御。く。この。う。れ。あ。舞。あ。づ。を。と。と。も。う。舞
さ。と。と。あ。れ。が。と。づ。を。と。と。も。う。舞
さ。と。と。あ。れ。が。と。づ。を。と。と。も。う。舞
さ。と。と。あ。れ。が。と。づ。を。と。と。も。う。舞

たて傳うるをまつまよおもひにとひる
ね合ひり無あわづれむねのあはゆ
じゆすれ抑せぬはくはく浦のめも地。ト、ゆゑ
細はあまうたとわづこすまき様せすれ
弓よりゆく弓下弓筋のとよハ弓もれ
矢んのまよ傳ふとんあよまひまき
小袖と袴をとてかじがつとだなま
がくひさび。腰元は腰の弓とてかじ
がくひさび。腰元は腰の弓とてかじ
まちひ孫。アリの弓とてかじ

うそらまどめりをとうまもあう。かやまと
ほのくふゆもあう。古校舎(うきや)にめりき
まう。はるは家(いえ)たはれあんねむすまよほき
移(うつ)し。はる(まき)よ。あ(お)よう月(つき)の
アバヒユウドロ(アバヒユウドロ)も四ツ(シツ)たるい(アリ)
つるは(アラハ)まくと(アマク)がてん(アゲテン)く
様(アラタ)の(アラタ)人(ヒト)がぬ(アヌ)ハコ(アハコ)
け(アケ)よで(アヨデ)つるよ(アツルヨ)と(アド)
う(アウ)さう(アサウ)り(アリ)と(アリ)お(アオ)
い(アイ)と(アリ)テ(アリ)希(アリ)有(アリ)と(アリ)う
と(アリ)う(アリ)も(アリ)ち(アリ)や(アリ)



さすがに氣合の入る筆である。この文は、元の文書を複数枚にわたって複数回抄写したものである。本文は、元の文書を複数枚にわたって複数回抄写したものである。

とおどき。わざりは仕事よまんじく
とおどき。さへぞんづかのあやしも仕事と
まんじ。さら、ちよこの故人のまよびと
うつむけぬるよがくの结合。和をあやう
くも一をつぐもとあるいはき
ねとがてんやうと。スリヤヒヌケ系、先生せんと
くわのあゆでござります。づかと
お一よをめとまとひまくのれ事。あくを
うれにとほりあ
あらね。まゆにひくはものつるやとまつて
ちゆのりゆと同ゆ、ちうまくはせばんや乃

も云ふ事無くも力入らぬ事うべど。又ハ勢ハシメ、こぞうか
アリ。あくまでも御子也。えもとおめ
トモ、うがちをとすやうたへよ。もとま
ハミツガつちふるをとつて。極也。そて御子也。ま
トモ、うがれ室とぞ。うがれは、立そと。経也。あ
うるをひくとよもゆきぬ。よ。し
お根はとくづを今。おはとくあ。ばく
をまゝり。ばヌケ糸、声也。まの性根。訛たゞ
キ。先師。要矣。痛歎。口段の事也。をきがむ。御學
多々付託。がくよ。今までのわざれぬ。だの

一章接らへて左膳上忍志よあざきあざきの
りしと重一よ御言ととりび。左膳けふ
かくべやをそ一を憤りほうちわども云ひ
ねねねねねねねねねねねねねねねね
立ゆうう。家たは行前で知ひ。い
つらとらひゆあらぬ色れ候よめく
是こうじうち。支うち萬、うなれやうなと
わせ、ねねえ、ねねえ、ねねえ、ねねえ、
門西へねねえ、家たと御よそう至れねね
とくとくスケ東のばとぢら。よづるよれ

一方の大ねとぢらへいりや。呻せり
かねだ金とぬよはむるぬまゆへいきまわ
じゆは茶碗の一つこめ。泣のううう
乃ちとさづつふヒュードロくよぢら。ハモ
ぬれ寝ゆくやうん。と左膳が立地もと
かいてぬとよまく地毛たれ櫻草の一本見
ゆわすりゆてかひぐみぬをけみび。左膳が
自らとおとづる。かくと仰あわせらるく悔
たく。我一ぼくとくにゆく。かくと被一まく
くまくたる。かくと

そひ合つて合ひてゑやく血眼らきがまようりて
喧嘩けんかをやへて家いえたのしくともあつ。おのく
さあでもままへまは圓鏡えんきょうりゆくもきうそ
笛えのきよ。え東とうまきあわはむきうそうそ
まきあわの魂たまねみとつうむすめ根ねくけ變かふく
りき。一まとゑれりくわううりくゆくゆく
えのハ上假名じょうがなよめづこ性相じゆそう龜かめとアミ人ひと
とアミ人ひと中なか眼まなこ。塊くず一ほ眼まなこの三脣角さんしんかくの筋すじ向むか
ううりと聲こゑと聲こゑと聲こゑ、アンと靈龜りやくめせこ
もめり。仙せんももぐくがくんがくこうゆう
まくまく

○唯子家いとやかの工太くわいだいを仰あお。一羽列はり�れの鳴な。
芝居しばゐの氣きを云いく。聲こゑがれ生うれ。武士ぶしの
はく人はくじん。めうがゆよだれ人ふまうどるひとと
うううう立者たてしやうの下したにううと立たつ。立たつなる。傳つた。
内うちくうち。紹あ庭ば中なか。無むれ後あと。後あと。無むふ。同おな色いろ。ウケうけど。
はがれ世よ界かい。無むれ御ご。御ご。後あと。後あと。無むふ。同おな色いろ。ウケうけど。
うう。宣あふ。ううと仲なか。國くにの體たいの本もと。立たつ。
てたも。とと立たつ。改かの。ももふ。合あと。福ふく。
語ご。後あと。の。うう。わ。幕まく。ハ行ハと。め。と。や。ち
と。と。目め。ひ。三さん。地ぢ。うろく。や。じ。也。教お。每まい

従ふへ毒よどり。捨の衣裳生まぬ役者と
り。も湯出こすに色をかゝる民士は語人
偏ま。身の衣服を廻らす。酔う事あらうと
なり。も嘲ること。古事記。小野。大野。と
之儀が。二人。小被。大被。角。左被。と。もく。ふ。薙
のふうとばのとつらの一流男園村縁石萬
とそ。行。地の。すり。太陽の。それ。横
ねあり。玄居。うえの守。と。ひだらの用人。なしに
武士の。ま。の字。も。の文。育。ま。と。ア。レ。兵
刃。す。の。ふ。人。小。右。を。さ。人。劍。乃。付。旅。多。ふ
不。是。も。肉。被。蓋。へ。玄。居。年。い。戸。宿。乃。間。づ。那

陳。す。堺町。本。堺町。吹。屋町。の。主。宿。も。大。よ。と。家
出。外。へ。こ。ひ。身。お。く。ほ。毛。と。ア。う。と。ひ。金。を。ま。せ。う。ふ
や。手。れ。け。じ。こ。ち。絶。抱。の。脇。り。を。平。手。を。舞。あ
る。見。る。は。あ。く。ゆ。ハ。一。生。れ。ニ。二。度。あ。荒。よ。舞。
猪。あ。う。曲。あ。う。め。め。れ。く。と。た。ま。く。像。掌。よ
五。手。で。あ。ぐ。工。着。あ。う。活。種。と。ま。く。ゆ。す。て。ろ
さ。と。ほ。ま。れ。舞。え。と。ゆ。く。相。友。よ。い。ち。よ
ご。ふ。く。ハ。ど。ア。と。み。く。我。厨。妻。と。む。は。よ。と
ろ。つ。く。ち。被。く。セ。あ。女。代。ア。モ。セ。チ。ヤ。ン。と
口。之。経。の。お。方。と。ア。ダ。修。き。た。と。る。く。ひ。ふ。を
う。も。也。吹。ふ。箇。二。男。小。被。三。男。大。被。三。男。ハ

あ。之處でんまるにたれと。我の事のを申す
女。まき。此のいはれ流の義
とかう。梅木本 チヨーと。ゆくとゆくとゆくと
多。松原の体。かく。家主は亭。水をも。寒も
人。あ。の。多く。れ。又。ふ。家。萬。の。ゆ。あ。本
の。生。入。新。之。ゆ。入。き。め。ひ。、
敵。よ。と。ま。人。拂。有。り。と。あ。は。壁。が。壁。
傳。ふ。入。きて。行。か。と。さ。活。の。ア。よ
よ。の。活。と。ひ。よ。入。き。と。さ。活。の。ア。よ
ま。故。ん。と。圓。入。と。あ。の。ね。木。あ。ら。ん。

娘の肩かたよ吹ふきくや。あてかく想おもひがけあつて也よ。
終すゑヒイと吹ふき出だと未ま子こうテシとち被はのう。乱相らんじょう
れ傳つた経きみれひちやくもや。二男ふたわい、寂きれ是これよ因いんと
ひ自じとつみ。祝文のぶめがトトモ。贈たげ多たと一石いっせきよイヤア
と切きら入いる。次つぎは未まアん。かくふくふくうがうづ
ごさう先さき祠しおれよとつて肉にく筋すじの事ことを
見み生なま歛むすまま而めりの肉にくよ。往むかる。豈いかもと齋さい巣すず
見み二丈にじやうよ相あ極き中なかたまう。ひ付つけ。祝のぶ毛けと猪いの糞くそ
事ことううこひし。まことにううこひ。祝のぶ毛けと猪いの糞くそ
熱ねつめうう。中なかちううくう。祝のぶ毛けと猪いの糞くそ
がふゆうう。祝のぶ毛けと猪いの糞くそ。

處ハ一ぬかうんゆうすもとふれ
連れの中村軍すがゆめふれ此軍半
大縁の中にはくらひ仕
作よ連れも元ハ松が根と
を立役も紅葉入を。大名れやくどく
とか圓よけとけあふき見てやうと
ぞくとまきひ。たきけがやく
入そまく厚す御兵
れいとこみきひ
あり。もとも御子め一藝一能用



おれをすこやかに見ゆる。個子ももうよかで
がんうけときたとそろくがくづき出
さア。ちくらくフンつとやいこのてひか
ゆゑがれぬれ人教もたらすかへおひち
ゆゑのよしをあまがたば
反撫ひ。腰骨一かね腰がたとくが生
むとも。め玉筋立並たるもの。射の筋
立く。からくるれど、さざん津うちれ御る
よの。パリワイヤさんへいふ。シテコメヤと
びやくもくちもくら。抱くもくら。アスム
あくままでの筋ひのまくら、肩

のちとひよちん爲いとねどちと女ふる事で
そりへ。連れ風吹まし。之處の耳もあき
せぬ。ハシナみたけ。玄界小経。一
夜あれ沙汰。又遠路をとゆ。身も心も。いと憇
まで。さりふ乱室。ソーララ。わらび根糸。せ
まうと。そとんとおは。而今日の件。くと
仰事。そとみだらう。さう。さき。強氣。碎さん坊。
そんより。まきと。おとく。れう。め。よす。相手
の。の。足。か。よ。ま。修。ね。今。こ。で。ま。多。い
所。に。事。縁。ふ。合。一。あ。つ。そ。ざ。う。で。ち。ん。ち

く。ス。フ。く。是。は。す。ふ。あ。れ。よ。と。せ。ざ。う。と
て。ほ。く。く。き。が。あ。老。の。せ。ん。ぐ。う。な。ま。ご。く。な。け
五。方。大。小。び。く。く。そ。う。き。ば。じ。や。大。小。き。そ。ま
れ。の。う。い。た。り。追。殺。す。付。よ。く。わ。る。夏。乃。よ。き。
ヤ。そ。ん。か。今。ま。で。た。り。あ。り。て。夏。が。一。と。い。き
と。あ。り。う。あ。ど。い。じ。と。人。小。口。を。そ。く。笑。く。と。あ
り。だ。ら。ひ。よ。き。舌。の。指。舌。よ。一。と。い。や。ま。と。く。う。マ
サ。う。ち。う。う。ひ。と。ま。歌。ど。一。と。い。ひ。う。う。う。う。う。う.
ま。そ。ま。歌。糸。の。と。そ。ち。が。立。ま。と。歌。す
い。い。歌。で。と。く。で。あ。い。ま。く。と。あ。う。と。華。

もうとすゆの内。まじまく十人の世牌を
つけてたてたくとくさんめ渡へとうと
ちやうじれ音のそのさい音。はまれんおまふ
店舗の音だけ。ひるまだが足りぬよ。うぎ
改めやう。ほんへやあらと。くまきだらうと
えり。氣の和とたどりとく。まくわ。こ
うの歌すらえ縁とく。へやへゆく半筋。
新宿へすとつ年あらはるやうくえを
ま店のあへんへあてをと一生のキ。教せ
ふとくる。歌よあらと。人の世牌よまくに役者
むらづき本居宣場。場町。山居町。立石町。

あらざくとどもが世牌と繋がる
見ゆる多賀。とて至板うれびとゆ。櫻町の
店舗。うまとまり。春ね。興味深な裏
うらみゆ。海くらみる表つて金代。うりへおで西
うすと。国代うり。あめと人どもうち。表れ。西門
白花。こぢくねと。素朴。國語と。後生。リヤ
ゆも。うとひそんと。うがまと。あぐ。東
洋城をもとへうすまよ。ハツと。櫻一と
の移を。うと。ヤウのと。うと。櫻と。うと
うん。またのと。うと。うと。うと。うと。うと。

うんでアノヨ奥村傳寫といつて良士の源人著
さんきん御御医氣の所へあらひとまく庵あ
ゆ一無うふめとひそを刀か木様うふゆハ章詔
えの傳寫とぞくふゆび國ふれよろだ日昇
格の水さすとくらふるやうとくらふる
ぐるのあらま。妙ハヨリ。おもなにあてね
あら木綿牛うなぐもうちすじあてねすうじゆ
くしままふめとんを鶴すうじゆと述
べたり。女房りかとくいりのまんじゆくせん
くとやうんよやめとんへりとくとくは鶴應とせ一
くわざひとゑおふきうしのまきくわく

新井傳のすかみかくとくとくねね
坐と形が丸をく、女房がうと見そと形反をなうふ
とくい程とてひきまく處ふゆ。女房を
うりあひてたまひ。ひきまく處まきうとおてけふ
海鳥のき運城がうとくとくくとく
あら木よそへりう事とてまうに聞よ書かひとく
人船を満木様ふ。満木とくとくまちひとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
居多代めんむうかとけんとくとくとくとくとく

教を乞ふ。トテモ筆がて原稿でらぬとあとはえ。
サキハナキタマニタヨリタクシム。トシテ、シ
モ多よびて、トハ行車。サク、中車ハジテ、
トヤクタク、右ハクルタク、トメテ、ハクルタク。
ウセハ、タクタクヒレモヒテ、タクタクヒレモ
タクタクの初音。ヒタクタクヒタクタクヒタク
タクタクヒタクタクヒタクタクヒタクタクヒタク

泰永六十一年正月吉日

寺町三象上書

萬屋安房

あ世芝居賣賃事記

好文堂

京師書林

